

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第532号 平成25年4月22日

お小遣いを考える

日本珠算教育連盟は、今年2月、首都圏の小学4～6年生300人を対象に金銭の管理などについて調査したところ、「年収は4万5000円で、将来のためにかっちり預金」という、堅実な金銭感覚をもった今どきの小学生の姿が明らかになったとしています。

日本珠算教育連盟の調査結果によると、定期的にお小遣いをもらっている小学生は56.3%と半数を超えており、その額は1000円から1100円未満が26.0%と最も多く、平均は913円だったとの事です。

また、お小遣い以外にお金をもらうのは「お年玉」や「誕生日のお祝い」で、こうした臨時収入は約3万円という事で、毎月のお小遣いを加えた子ども達の年収は、約4万5000円にのぼっています。

また、小遣いの使途で最も多いのは、菓子やファストフードの購入で55.7%。ただ、まとまったお金になると、約6割の小学生が「預金する」と回答しています。

小学生の85.7%が預金をしていますが、その目的を聞くと、約60%の子ども達は「将来のため」だそうですから、誠に堅実というべきかも知れません。

子どもに対するお小遣いをどうするかは、多くの親達の悩みの1つだと思います。

そもそも、子どもにお小遣いを与えるべきかどうか、考えて見るとこれは結構難しい問題です。

経済的事情を別とすれば、「小さい内はお金の価値が分からないから」「お小遣いを渡しても無駄遣いしてしまう」「必要なものは買い与える」といった理由などから、子どもにはお小遣いを与えていないという保護者もいると思います。

私は、高校生の時も、親から毎月決まったお小遣いというものをもらった記憶がありません。学校の帰りがけに、店に立ち寄って自分の好きなものを買うといった環境になかったせいもありますし、何より、私自身お小遣いを必要とする程欲しいものがなかったせいもあるでしょう。

ですから、自分の子どもに対してどうすべきか若干戸惑いがありました。「必要なものは買ってやるのだから、お小遣いはいらないだろう」というのが私の思いなのですが、一方、家内の方は「子どもには子どもの世界があるのだから」という事で、毎月お小遣いを渡していたようです。

今から考えると、私の発想はいささか頑迷で、問題があったかなと反省する事しきりです。

私は、子どもには我慢することを教えなければならないと考え、だから自由になるお金は与えるべきではないと考えていました。しかし今では、決まったお小遣いを与える事によって、その中で「計画的にお金を使う」事が身に付くでしょうし、仮に欲しいものがあったとしても小遣いが足りなければ「お小遣いが貯まるまで我慢する」というように、金銭感覚や我慢する事を学ぶという点で効果があると考えています。

お小遣いは、与えると決めた以上は毎月決まった額にすべきで、保護者が恣意的に増減額すべきではないでしょう。例えば、「学校の成績が悪かったから今月のお小遣いはなし」というような対応は、決して教育的とはいえませんし、子どもに計画的なお金の使い方が身に付くとも思えません。

なお、子どもに対しては、貴重なお金を管理するという態度を身に付けさせる為にも、お小遣い帳をちゃんとつけさせる事が大事だと思います。約束を実行しているかたまにチェックする必要がありますが、その場合でも、使い方に干渉する事は避けるべきでしょう。

お小遣いをあげる場合、幾ら位が適当か悩む保護者も多いと思います。

この点について、金融広報中央委員会が全国の小中高校生、約6万9000人を対象に調査した「子どものくらしとお金に関する調査（平成22年度）」によると、小学校の中学年のお小遣いの平均は896円、同じく高学年は1087円となっており、全国珠算教育連盟の調査とほぼ同じ結果となっています。

これが中学生になると約2500円に、更に高校生になると5300円に跳ね上がります。

特に、高校生の場合は、右の表の様に1割以上の子ども達が1万円を超えるお小遣いを毎月もらっているという事ですから、親の脛は細るばかりですね。

折角のお小遣いですから、将来のために貯金するというのも結構ですが、やはり活きたお金の使い方をして欲しい、また、しっかりとした金銭感覚を身に付けて欲しいというのが、保護者の共通した願いだと思います。（塾頭：吉田 洋一）

3000円未満	14.3%
3000円～4000円未満	17.4%
4000円～5000円未満	5.7%
5000円～7000円未満	35.3%
7000円～10000円未満	3.9%
10000円～15000円未満	8.3%
15000円以上	3.0%
無回答	12.2%